

○協同組合山梨県流通センター

理事長 栗山直樹氏



新たな組合価値の創造を目指して

山梨県流通センターは、甲府市内の卸売業者を中心に田富町地内に昭和52年に竣工しました。広い敷地と広い道路という商業環境を求めていた組合員は団地に入居した段階で組合への加入目的が達成されたことになり、それ以後の組合運営の主要な課題は「組合としての一体性維持」となりました。

全国各地の団地組合で「金融事業・展示場・駐車場・倉庫・給油所」が5大共同事業として実施されてきました。当組合も設立時には5つの事業を実施していましたが、共同事業の見直しにより、現在では展示場と駐車場の管理の2事業だけとなりました。

さらに、この10年で組合運営にも大きな転換が幾つかありました。1つめは金融事業を廃止して組合の運営リスクを減らしたこと、2つめは組合の遊休資産活用により財務基盤を確立したこと、3つめは加入金を廃止し組合員の加入と脱退を容易にしたこと、4つめに被災時の対応として組合員の事業用ガソリンの備蓄・従業員の安否確認システムの導入・団地全域への104台の防犯カメラ設置など安全安心な環境整備を行ったこと、5つめに反社会的勢力の排除を目的とした定款変更並びに組合員と覚書の締結を行い意識の向上を図りました。これらにより、当組合は「恵まれた企業立地環境」を提供できるようになりました。

こうした変遷は歴代の組合執行部が、組合員の入れ替わりや世代交代、経済環境の変化などに伴う組合員の価値観や組合へのニーズの変化に柔軟に対応してきたからだと思います。

異業種の集まりである当組合は、組合員全体に共通した事業を実施することは無理があります。これからも変化し多様化する組合員の価値観に対応し時代に即した組合のあり方を模索し変化し続けることが重要だと感じています。そのために、「恵まれた企業立地環境」という組合の価値を理解し担ってくれる次世代の人材育成が喫緊の課題です。